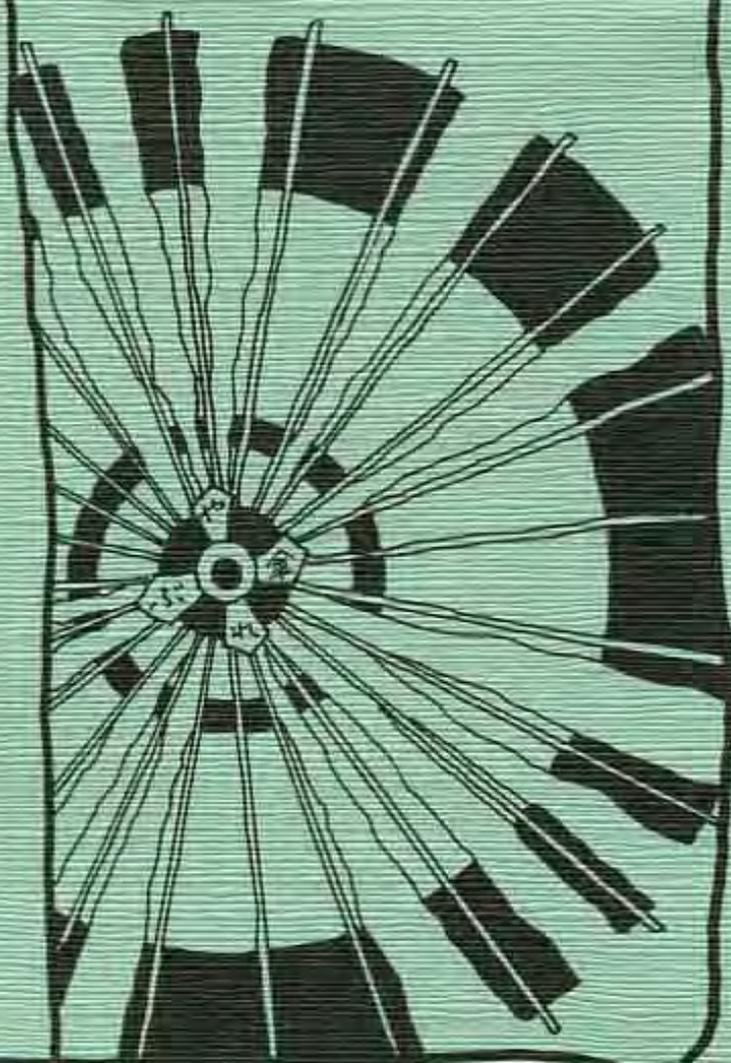


やぶれ傘



七十六号

二〇一四年二月

湯豆腐に振つて普光寺の七味	根橋宏次
いささかの竹藪いささかの冬陽	大島英昭
白梅や平屋を囲む石の塀	きくちきみえ
山茶花や土塀の続く道を来て	丑久保 勲
グライダー寒九の空にひかりけり	白石正躬
料理屋の火鉢に席を待ちゐたる	安藤久美子
檻にゐる熊と目の遇ふ寒の入り	瀬島洒望
田のひとつまること冬の日向かな	廣瀬雅男
段々を登り日向の花八つ手	渡邊孝彦
入浴剤シユワツと溶けて外は雪	藤井美晴
ふところの中にも雪が湯もみ唄	秋葉貞子
温泉の素匂ひ立つ初湯かな	久世孝雄
埋火やいつしか肩の触れ合ひて	石原健二
通り一つ隔てて生家初御空	國保八江
獅子舞の鉦はサンバに似たるかな	小山陽子

抄 集 句 傘 紀 夫 選 大 崎 ね ぶ や

雪の降る枕木の道行きにけり	有賀昌子
きよろきよろと胸に抱かるる冬帽子	松村光典
すずしろの小さき七草セツト買ふ	大野芳久
家の鳴る音を聞き入る霜の夜	岡田香緒里
雪催ひ部屋いつばいに産着干し	上林富子
ミシン踏む母がゐるやう小六月	貝井照子
縁側にピッケル磨く小春かな	野口希代志
初詣規制の綱の上下する	橋本美代
寝静まる家々てらす冬の月	松本普一
ほくほくのかほちやほぼる冬至かな	森美佐子
達磨市千の達磨のひとつ買ふ	山本千夏
母と乗る福祉タクシー枯木道	湯本 実
齧起し石の浜には石の音	青谷小枝
端切れの布でお手玉春隣	天野美登里
数の子を囁む音ピチと耳にはね	安斉正蔵

冬の星

渡邊孝彦

枯蓮池に注がる水の音
走り根を桜落葉の埋めつくし
段々を登り日向の花八つ手
銀杏枯る伝法院の花灯窓
年の市店の並びの端に矢場
田に佇てば晴間広がる三日かな
路線バス坂下り行く冬の星
小寒や午後のパン屋の賑はひて
寒林の奥に山家や鳥啼く
樅の木は杜に古く冬深む

入浴剤

藤井美晴

木の椅子を軋ませてをり日向ぼこ
裸木の梢に昼の二日月
ベランダに猫が来てゐる冬の月
冬萌えの中に古りたる校舎かな
入浴剤シュワツと溶けて外は雪
置炬燵新聞と茶と鯛焼と
日の当たる厨の窓に冬の蠅
冬のキャンパス飛行機の低く行く
冬晴れの野川に沿ひて歩きけり
粗樫の向かうの雲の冬茜

湯もみ唄

秋葉貞子

いく度も枕をかへす夜の長さ
萩白し寺苑に拾ふ羽根ひとつ
秋ともし越前和紙に日の匂ひ
寒紅やときに不逞の面がまへ
ふところの中にも雪が湯もみ唄
亡^つ夫^まの里は風の町なり雪催
雪をんなゆきの匂ひを置いてゆく
日溜に山の言霊ふきのたう
相槌をどこで打たうか土筆んぼ
芭蕉庵ここにも一人梅の客

初湯

久世孝雄

冬没日はづれ馬券の乱舞かな
数へ日で点滅始む青信号
干蒲団たたく音して暮れにけり
冬ざれの新興住宅老いにけり
切れ味の鈍き包丁葱の白
掛け軸の忍の一文字冬座敷
風邪ごゑの妻の一言聞き洩らす
除夜の鐘皿鉢洗ふ音忙し
温泉の素匂ひ立つ初湯かな
末席に犬を座らせ雑煮膳

行く雲

石原健二

行く雲や枯蔓森をわしづかみ
裏木戸の開かぬ扉や花八ツ手
丸き背が地に着くやうや大根引き
埋火やいつしか肩の触れ合ひて
雪一面庭の明かりは隣から
知らぬ間に陽あたる障子冬の蠅
冬空や墨田を上る船明かり
菜を採りて畝そのままに冬ざる
淡雪や水なき川の川原石
豆まきの戸の開け閉めや風のこゑ

生家

國保八江

白障子の花の切り貼りそちこちに
人込みを夫の冬帽目じるしに
我生まれし日の祖父の日記や冬椿
垣に沿ひ冬のすみれの鉢並ぶ
山茶花の散り敷く坂は下り坂
産土のわきの祠に鏡餅
通り一つ隔てて生家初御空
戒名の話などして冬灯
仏花にと庭の寒菊二三本
括られて立つ白菜の畑かな

冬 雀

小山陽子

冬の蠅払へば甲に当たりけり
ゆりかもめ棧橋に舟当たる音
鴨の池大鯉ふいに跳ねにけり
数へ日の冷蔵庫より物落ちる
獅子舞の鉦はサンバに似たるかな
柵の上に腹で乗りたる冬雀
アパートの二階空き室冬日差
豚汁の人参のいろ目立ちけり
着膨れてコーヒーを飲むドアのそば
鴉にも品あるやうや冬うらら

枕 木

有賀昌子

冬日和びんづるさまの頬を撫で
舟下りの波間に釣瓶落しかな
蔵の町に三時打つ鐘実南天
三百年の榊の木に瘤小六月
山眠る夜のともしびは谷戸の里
ポーラ美術館前に紫式部の実
湯宿来て寒鴉鳴く朝かな
石蹴りの石ころころと花八つ手
入口に葉牡丹ならぶ動物園
雪の降る枕木の道行きにけり

冬帽子

松村光典

公園を埋める落ち葉の厚さかな
きよろきよると胸に抱かるる冬帽子
冬の雨雪の予報は裏切られ
ホイアンにドリアン求む師走かな
満月の雪の予報の空ホイアンはベトナムの街にあり
初春のジムを四キロ走りけり
こんもりと霜柱立つ踏んでみる
枯芝に子らの寝転ぶ日和かな
北風を背に太陽を真向かひに
大寒の公園をひとまはりして

凍初寒冬冬乾秋
 つ仕風の枯きう
 る事の蠅れたら
 夜橋の耳身のるら
 のの掠じ裏冬柔
 星行くめぎ道にき
 々くたせ風の歌赤
 天手にるびに通声児
 に富ル石の響の
 那富士谷のりき類
 須士遠の間上かなり
 宿く間上な

枝みや子

原発のニューースまた聞く置炬燵
 境内に篝火
 水鳥の浮き出るまでのしじまかな
 ことさらのことなくせはし三ヶ日
 山積みにされて転がる福達磨
 すずしるの小さき七草セツト買ふ
 脱ぎかけの外套重し茜雲

大野芳久

岡田香緒里

古井戸を覆ひ尽くせり秋の草
立ち飲みワイン三杯冬来たる
何もかもうまくいかぬ日落葉踏む
待ち合はすミルクスタンド日の短か
寒菊を剪りて仏の花となす
家の鳴る音を聞き入る霜の夜
縁側に夜更けのポインセチアかな

奥田温子

枯尾根を行けば左右に日本海
大き舟の大きき曳波ゆりかもめ
留守宅の庭に降り積む柿落葉
舟宿のならぶ川筋ゆりかもめ
街川ののいづもとの冬鷺
触れたればきんと鳴るか冬の月
一輪の水仙香る夜の厨

◇ 3月・4月の句会案内

月	日	時	句会名	会 場	連絡先
3月	4日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	4日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	5日(水)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	7日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	7日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	15日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	22日(土)	AM10:00	楽 天 会	中央公民館	廣瀬雅男
	23日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
4月	1日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	1日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	4日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	4日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	7日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	19日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	20日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	戸田公園	丑久保 勲
	26日(土)	AM10:00	楽 天 会	中央公民館	廣瀬雅男
	27日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

(注) ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

4月20日(日)の吟行。集合は10時。集合場所はJR埼京線戸田公園駅。

吟行地は戸田公園(ボート場)。句会場は 武蔵浦和コミセン第4集会室。

◎連絡先 瀬島 孟 ☎048-862-2757 藤井美晴 ☎0422-55-2733
 大島英昭 ☎048-592-5041 WEP編集室 ☎03-5368-1870
 廣瀬雅男 ☎048-443-7522 浦和コミセン ☎048-887-6565
 丑久保 勲 ☎048-853-3856 WEP俳句教室 WEP編集室へ